

2024 年度第 8 回 N P O 法人共同保存図書館・多摩理事会

1 日 時：2024 年 12 月 10 日（火） 午後 8 時 00 分から

2 方 法：ZOOM アプリを媒介にしての遠隔会議

3 議決権のある理事：9 名

出席者：座間直壯、雨谷逸枝、清田義昭、小池信彦、齊藤誠一、田中ヒロ、中川恭一、堀 渡

欠席者：保坂一房

事務局員の参加 なし

（1）第 1 号議案 会員の動向について

【報告】

- ・ 12 月 10 日（本日）現在
- ・ 正会員：個人 77、団体 2（計 79） ・ 賛助会員：個人 27、団体 2（計 29）
合計：個人 104、団体 4（総合計 108 名・団体）
- ・ 第 3 回理事会（5 月 21 日）の報告時から変化なし。

（2）第 2 号議案 第 2 回多摩地域ライブラリアン講座の進捗状況について

【報告】

- ・ 9 月末まで募集期間を延長し、応募してきた計 10 名を受講生に決定し、講座を開始している。11 コマのオンデマンド講義を公開し、各々、都合のいい時間に受講してもらっている（その受講レポートの締切は、12 月 15 日）。
- ・ 次の課題は、受講生が考える新規事業企画の提案である。各々が図書館で実施したい事業を考え企画を練り、全員が 1 月末の ZOOM による発表会で提案する。3 班に分かれて企画案を練り上げるワークショップが始まっている。
- ・ ワークショップの説明会は日程調整がうまくいかず 10 月 17 日（木）と 10 月 25 日（金）に分けて実施。その後、11 月中に、3 班とも第 1 回ワークショップを実施した。受講生は現在、第 2 回目のワークショップに向けて、企画の再検討中である。
- ・ 開始が遅れたせいがあるかもしれないが、オンデマンド講義のレポート提出が遅れ気味。各自でコンテンツを視聴してレポートを出さなければいけないが、まだ未提出の人が多い。締切が 12 月 15 日なので、注意喚起のメールを送った。

【討議】

- ・ 企画を練り上げるワークショップは 1 回目が終わった。1 回目では、それぞれ考えた企画の骨子を発表し感想やアドバイスを出しあった。各班とも第 2 回の日程調整を進めている。

- ・今回の受講生は、図書館歴が長いベテランや多様な職歴を経た方が多いこともあり、最初の段階では幅の広い企画案が出されている。
- ・現在の課題は、受講生には、オンデマンド講義のレポートを締切までに出してもらうこと。講師の方には、1月のオンライン講習会の準備を始めていただくこと。
- ・講義レポートを出した人が非常に少ないことが心配。今週末が締切なので、最終的には少し締切を伸ばさなければいけなくなるのかどうか。
- ・それ以外は順調に来ている。

(3) 第3号議案 第43回多摩デポ講座「市民アーカイブ多摩」見学会の見通しについて

【報告】

- ・11月16日に発行した『多摩デポ通信』第69号に、施設紹介と見学会の記事を掲載し案内チラシを同封して、参加者募集を始めた。今週末の12月14日が実施日だが、会員と多摩地域の図書館にはいつもと同様の方法で周知した。
- ・本日現在、申込は会員の図書館職員1名、会員の元職員2名、賛助会員の市民1名、理事・事務局7名。計11名。現役職員の反応が弱い状況である。

【討議】

- ・施設が広くないので15名の募集定員としたが、現在の応募は11名。理事・事務局員以外の反応が大変少ない。
- ・会員の元職員というのは、以前に理事や事務局員をしていた方、現役職員というのは、ライブラリアン講座受講をきっかけに会員になってくれた方、賛助会員の市民というのは、いろいろな見学会によく来てくれる方。会員や多摩地域の図書館に以前と同様に広報したが、市民活動の資料を集める施設というのがなじみが薄いのか、コロナ後のせいなのか、応募は少なかった。
- ・多摩の身近なところで、ずっと活動を続ける施設・団体だが、実態はどう充実しているのか。丁寧に説明してくれるということなので、内容的には期待できる。

(4) 第4号議案 多摩デポブックレット第17号の編集の進捗状況について

【報告】

- ・講演の録音を元に担当者が作った原案に、講演者の田中久徳氏から迅速な対応を返してもらい、版下原稿を作ってきた。11月30日（土）には三鷹まで来ていただき、三人で打ち合わせを行った。
- ・12月2日（火）にけやき出版に入稿し、現在、編集作業中。2月半ばに納品予定。価格は前号と同じ本体価格1000円になるが、了承してほしい。
- ・田中氏にはブックレット発行後に多摩デポ講座として講演することを依頼し、快諾してもらった。講演の開催は、2月後半から3月にかけての週末になると思われる。

【討議】

- ・田中氏は非常に意欲的。NDLが蔵書をデジタル化した状況を踏まえて、改めてNDLと公共図書館の連携とか、NDLと公共図書館がともに作り上げ、全体が共有化されるような「国の蔵書」。あるいは国内の図書館で提供できる資料全体の視点を前に置いたブックレットになると思う。
- ・「多摩デポ通信」の年始の発行時期が悩ましい。2月中旬のブックレット完成に合わせ、それを同封して送れるタイミングでの発行にするのが合理的だが、そうすると年始の号としては半端な時期になる。
- ・講演の内容は決まっているか？
- ・総会記念講演は、講演時間が短くて質疑も行えなかった。フルの時間を使い、NDLの蔵書デジタル化を踏まえての公共図書館とNDLの連携とか、保存と提供の協力体制といった話をしてもらう。質疑時間をきちんと取れる形で行いたい。
- ・ブックレットの内容との関係は？
- ・ブックレットに書かれたことの延長の話になる。ブックレットは総会講演をメリハリつけながらもダイジェストした内容。戦後のNDLの成り立ちとか、NDLのそもそもの性格の説明が冒頭の何分の1かを占める。講演は、その辺は後ろに退き、蔵書デジタル化を踏まえたNDLの今後のあり方と公共図書館との連携などを主にした話になる予定。
- ・タイトルはどんなイメージか？
- ・ブックレットのタイトルは「公共図書館の未来と国立国会図書館の役割—『国の蔵書』を自在に利用できる時代へ」となる予定。総会記念講演の第3章に対応している。NDLは蔵書のデジタル化を進めている、だがそれは万能ではない。公共図書館には現物も持っていてほしい。また公共図書館でしか集められない紙の資料がある。公共図書館は、今後もそれらを収集し提供できるようにしてほしい、ブックレットの3章部分をもっと具体的に話してもらうことになる。公共図書館への呼びかけになるだろう。
- ・「多摩デポ通信」は通常なら1月のどこかで新年始めの号を発行するが、ブックレット同封の関係で2月に最初の号が出るということで理事会はいいか。
- ・郵送料も大幅値上げしているので、紙面での新年の挨拶も2月に回すということではないか。新刊のブックレットを同封しながら、著者に2月下旬から3月上旬にかけて、多摩デポ講座という形で講演会をやってもらうということ、了解した。

(5) 第5号議案 府中市立図書館の蔵書目録中、ISBN未記載の書誌データへのISBNの機械的推定と検証作業（一般書分）について

【報告】

- ・今年度は一般書の9門の作業を行う予定だったが、開始が遅れていた。
- ・前回の理事会で報告したが、TAMALASでNDLの所蔵確認ができなくなっている

るトラブルを(株)カーリルに解決してもらうのに時間がかかっていた。ようやくそれが解決し、事務局員による検証作業の試行を 11 月 26 日（火）から再開し、進行中である。

- ・ 12 月 7 日（土）には、10 名の予定で作業ボランティアの募集を始めた。12 月 23 日（金）までが募集期間で、応募してくれた方にデータを振り分ける。作業をする期間は、1 月 4 日（土）から 31 日（金）。開始が遅れたので、検証する件数を 500 件に減らしている。

【討議】

- ・ 詳しく説明すると、今年度は（株）カーリルで機械的に突合した I S B N 付きデータ約 1000 件を提供してもらい、検証作業を行うつもりでいた。事務局で先行して、そのうちの 200 件の作業を始めたら、機械的に推定されたデータには N D L の I S B N がヒットしているのに、T A M A L A S で検索してみると N D L がヒットしないケースが出てきた。どうしてこうなるのかを（株）カーリルに問い合わせていた。
- ・ 理由は、(株)カーリルによると、もともと T A M A L A S は N D L の所蔵情報は紙資料の書誌に紐付くように設計していたが、N D L の方で、デジタルコンテンツがあるものはそれを N D L サーチに表示するように変えたいらしい。デジタルコンテンツの書誌には紐付いていなかったのがヒットしなくなったという。原因調査と対策に時間がかかったが、やっと T A M A L A S で N D L の所蔵がヒットするようになった。200 件の事務局での検証を再開し、併せて、作業マニュアルの改訂を進めている。
- ・ 開始が遅れるので、件数を 1000 件から 500 件に減らし、今年度中に終わらせて、結果を府中市に返そうと考えている。ボランティアを公開募集するのは大変有意義だが、今からまたマニュアルを全部説明して作業に入ってもらうのはきついので、今回は以前参加した方にメールして募集中。慣れた人にやってもらった方がいいかと。
- ・ トラブルの理由が見えてきた。T A M A L A S の問題というより N D L の所蔵データの公表の仕方の問題だということで、そこを手直ししてもらった。T A M A L A S は、この検証作業以前に、多摩地域の図書館が図書館の所蔵調査をするためのもの。その中で N D L の所蔵も同時に分かるという仕組みに、もう一度戻れたと思う。
- ・ 検索者が N D L サーチで調べた時、紙資料ではなくてデジタル資料中心にヒットするようになってきているのか。
- ・ ヒットしたものはデジタル情報があるので、それで利用してくださいという方に誘導しようとしているようだ。どうしても紙資料が見たいなら対応できるのだろうか。
- ・ 確認していない。サーチで検索すると、紙資料とデジタル資料が同時に表示されるようなアイコンが出てくる。どちらも使えるような感じではある。
- ・ 紙資料を利用したい場合は直接行くか、遠隔コピーか。遠隔コピーも近くの図書館に行って登録してコピーしてくださいになるかな。
- ・ 動向の変化を、各公共図書館が十分理解して、市民サービスできているか心配だ。

(6) その他 (財) 東京市町村自治調査会の「情報資源活用方法に関する基本構想案」作成
への協力・支援について

【報告】

- ・多摩デポの理事4人が有識者会議のメンバーに依頼されて検討してきた「新資料室構想案」が11月末に出来上がったので、報告したい。
- ・府中市内に東京自治会館がある。都内のうち23区以外の、多摩地域と島しょ部、合わせて39市町村の自治会館である。この会館が建替えられることになった。会館には(財)東京市町村自治調査会の資料室があり、新たな建物に資料室も移るが、この機会に今後の資料室がどうあるべきかを検討し、新資料室の設計にも生かすことになった。については多摩地域の図書館長経験者である多摩デポの理事も参加してほしいと依頼がきて、約半年間、検討を進めてきた。
- ・メンバーは、多摩デポ理事の座間、齊藤、中川、堀のほか、小平市立図書館元館長の蛭田氏、座長に青山学院大の小田光宏教授の6名。15回の会議を行った。
- ・自治調査会はさまざまな調査報告書等を出すなど活動を行っている。資料室には3万冊程度の資料があるが、今まではほとんど利用されていなかった。構想では、市町村地域の広域の行政資料をもれなく収集し提供する施設を目指し、将来的には15万冊規模のセンターにしたい。自治体職員だけでなく一般住民にも公開する資料室にしたい。調べ物をしたり、打ち合わせをしたり、情報センターで交流センターでもある開かれた施設を目指すべきだというふうにまとめている。
- ・提案書は調査会の承認を得て、各市町村や図書館に送られると思う。建物については、来年度までに今ある資料を整理して箱詰めし、建物解体に備える。新たな建物を建て、令和10年後半に開館する予定である。
- ・この構想の検討のために、該当地域の自治体の役所と図書館に行政資料の発行と保存の実態を知るためのアンケート調査を行った。その結果、各自治体には図書館があり行政資料の収集、保存、提供を続けていること。相当量の行政資料が各図書館にはあることが分かった。調査会の資料室は、各自治体の図書館と連携・協力した方がいいことを提言した。
- ・さらにどの自治体も共通し、行政の情報発信が印刷物の発行からインターネットを通じたデジタル発信に如実に切り替わりつつあること、しかしその情報の保存には取り組めていないことが、役所の回答からも図書館の回答からも分かった。これでは、以前に発信した行政情報に職員も住民もアクセスできなくなってしまう。それに対策を持つ自治体がほとんどなかった。自治会館が新資料室を作るなら、紙資料の行政資料を漏れなく集めるだけではなく、切り替わっていくデジタル系の行政情報をきちんと集約できるようにしなければいけない。このことは自治体でも図書館でも課題だが、それぞれが保存できていない中で調査会の資料室はどうするかというのが新提案では大きなことだった。

【討議】

- ・提案を踏まえて自治会館が新資料室をどう作るかの課題があるが、一方、市町村の図書館も、デジタル化する行政情報が保存されていないという課題の認識を持ってほしい。どの自治体でも図書館は、少なくとも自分の自治体の行政資料の収集と保存、提供を続けてきたが、行政行政が印刷で発行されなくなると、情報の提供と保存に穴が開いてしまう。
- ・調査の前は、自治体および図書館での対策がここまで出来ていないとは予想してなかった。自治体も図書館も、デジタル情報の保存に取り組んでいかなければ。
- ・今回のライブラリアン講座の受講者には、役所の行政情報を図書館がどう収集・保存していくかに取り組みたい。そのことで役所に連携を提案したい。それを自分の企画にしたい方が複数出てきた。そういうことを考えるベテランがいる。新資料室が出来るまでの4、5年で、各自治体も図書館も変わっていけばいい。そういう自治体や図書館の動きに支えられて、調査会の新資料室になっていけばいい。
- ・多摩デポの課題に通じるが、行政資料も各自治体の図書館では持ちきれないことが起こりうる。もちろん自分の自治体発行の資料ははずしてはいけないが。どこかで広域で保管するとしたら、それは自治会館の資料室ではないか。多摩、島しょ部の行政資料の共同保存が実現しそうな可能性を感じる。
- ・有識者会議が作った基本構想案は、今後、市町村や図書館に情報提供すると聞いているが、印刷物にはしないかもしれない。

(7) 情報交換

- ・『多摩デポ通信』第89号を11月16日に発行した。
- ・今年3月に発行された『東京都立図書館50周年記念誌』を読み込んで都立図書館の保存方針の変遷と現在をとらえた前号掲載の記事は、見落としがあり不十分だった。執筆者が書き直した文章を事務局内で確認し、『通信』に、再度、全文を再掲した。

【多摩デポ関係記事】

- ・特になし

【共同保存図書館関連論文、記事】

- ・特になし

【今後の予定】

- ★ 事務局会議(2024年度第12回) 12月17日(火)午後8時より、(Zoom会議)
- ★ カーリルとの共同研究 定例会 12月25日(木)午後8時より、(Zoom会議)

★ 次回理事会 第8回理事会

2月6日（木）午後8時より、（Zoom会議）

議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、中川理事、堀理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2024年12月10日

議長

座間直壯

議事録署名人

中川恭一

議事録署名人

堀 渡